

平成28年度 学校評価書

平成29年 2月 14日
 浜松学院大学付属幼稚園
 園長 金子 容子

1 本年度の重点目標

- ・ 感性豊かな子どもの心を育むために「楽しい絵画活動の実践 ―絵画カリキュラムの見直し―」
- ・ 視聴覚教材の製作・導入・活用に伴う研究
- ・ 子育て新制度に関する幼稚園将来構想の検討

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※ 自己評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表すこと

評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価委員の意見	評価
B	保育の計画性 ・園の教育課程および学年別指導計画を作成する。 ・指導計画に基づいた環境構成を行う。 ・自分の保育を日々振り返り反省と評価を行い次回の計画に生かす。	・全体研修で教育課程の説明と実践方法を話し合い共通理解する ・子どもの遊びの要求に合わせた指導案作成と環境設定を行う。 ・保育の反省を日案だけでなく子どもひとり一人の個人観察記録で丁寧に振り返りを行う。	・学年内での共通認識を深め、同等の力で行事に取り組む。 ・子どもの豊かな感性を育む季節感のある環境構成を行う。 ・子どもの発達や育てたい力を確認し、全体研や学年研でのカンファレンスを深める。	・保育の計画性における職員の自己評価はやや低めだが、計画通りの型にはめるような保育になるよりは良い。子どもの姿に応じてある程度柔軟なゆとりある保育計画を今後大切にしてほしい。	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の特성에応じた保育を行い個々の成長を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画を立案する中で発達課題や成長に即した援助を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援を要する児について年間だけではなく、学期ごとの個別指導計画を立て、より適切かつ効果的な発達支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とするお子さんへの適切な教育が評価できる。今後も子ども理解と支援教育に関する学びを深めていってほしい。 	
A	<p>保育の実践力と環境設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康と安全を意識した保育を行う。 ・子どもの衛生環境に配慮し病症の感染予防に努める。 ・子どもひとり一人の思いや発見を大切にしながら活動を進める。 ・発達に応じた保育活動をし、子どもは満足感や達成感を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全保健に関する年間指導計画を立案し、毎月実施および反省を行う。 ・園バス3台と全保育室に除菌霧化機と空気清浄器を設置すると共に適宜消毒や洗浄を行う。 ・子どもの言動をきちんと受け止め、クラス全体にその子の良さとして伝えることを心掛ける。 ・発達理解を的確にとらえるため臨床心理士からの助言も受け、保育に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師ひとり一人が常に危機管理を持って生活する。またいかなる事態にも適切な対応をするためのマニュアルに沿った訓練を行う。 ・衛生環境の維持と共に、子どもたちへの保健衛生指導も視覚教材を活用してより充実した保育指導を実践する。 ・教師ひとり一人が専門知識を深めるためのカンファレンスをより充実させる。 ・週1回、臨床心理士による育児相談および教員とのカンファレンスを実施し、親子の 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が自信を持って保育を行っている。また、子ども1人ひとりを大切に作る姿勢が伝わってくる。 ・園内環境の整備が整ってきている。園外保育は気持ちのゆとりを持つことが大切。近隣の公園にでかけて気持ちを開放させながら季節感を味わう経験を今後も実践してほしい。 ・先生方の心が伝わる保育を実践している。個々に寄り添った保育姿勢が親子の安心感につながっていると思う。 ・他機関との連携や様々な分野の人が親子の姿を見守る体制は必要。今後も充実させたい事柄だと思う。 	A

	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの実態や状況に即した環境構成をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由な遊びの時間と環境作りの工夫に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心理に寄り添った適切な支援を行う。 絵画製作活動の実践と評価に力を入れて取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の絵画活動は思考能力、表現力、発想力などの大切な力が養われる活動である。今後も是非豊かな感性を育む活動を実践してほしい。 	
A	<p>教師の資質とチーム力</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師としての能力、姿勢、義務を果たしている。 決められた役割や仕事は責任を持って実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任が一人で抱え込まないよう全体や個別での話し合いを適宜行い具体的な方法や改善策を教え合うことを大切にする。 教師ひとり一人が課せられた役割に主体的な姿勢で取り組むと同時に、互いに声を掛け合って前向きな考えで協力していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境、教材作りは、教師のアイデアや行動力が重要。互いに伝え合いより良いものを試行錯誤する。 いつでも相談できる雰囲気の中で、解決と改善を図るとともに、主担任と補助教員が保育に関する視点を共有できるよう話し合いの時間を設けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の協力体制ができている。教員が安心して勤務できる雰囲気が大切なので、今後も、先生方のメンタルチェックも大切にしながら日頃から良い人間関係を保ってほしい。 	A
	<p>保護者への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子や集団としての成長等をその意味も踏まえて学級通信で伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信やお便り帳の内容の充実を図るため、互いに読み合い助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信の枚数にクラスごと差がでないよう心がけるとともに、一方的な発信になら 	<ul style="list-style-type: none"> きめこまかな学級通信は付属幼稚園ならではの特徴。親は子どもの園生活を知りたいので、今後も継続して 	

B	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談やクラス懇談会はあらかじめ伝達内容を検討し、意味あるものとする。 保護者からの意見や要望を聞き入れ的確な対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人観察記録から時に伝えたい事柄を抽出し、保護者に具体的な姿をあげながら話をする。 保護者から相談を求められた際は、その都度丁寧に対応し、保護者の思いを受け止め改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ないよう留意する。 クラス懇談会や面談で充実した話し合いが進むよう、学年共通の議題を設定したり、事前に記録を整理したりする。 子どもの教育にとって大切な事柄を基準に意見広聴すると同時に、保護者の思いに共感しながらコミュニケーションを図る。 	<p>丁寧な発行をしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 園と保護者と子どもが一丸となって楽しく活動できる雰囲気が良い。それが、子ども1人ひとりが生き生きと輝いている理由だと思う。 	A
B	<p>地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 園に対する問い合わせや訪問者に正確な対応ができる。 地域の人々と挨拶や会話を交わす（地域への発信）子育て支援の働きを担う。 地域の自然や施設や人を必 	<ul style="list-style-type: none"> 園内のとりきめや状況を職員で共有し合い、速やかで適切な対応ができるよう心掛ける。 近隣への心地よい挨拶を徹底するとともに「付属だより地域版」を毎月発行し、園の近況や募集状況等を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内の行事活動やシステムに関する情報も全教諭が理解するよう資料を配布し説明をする。 今後も毎週木曜日の「どんぐりクラブ」の充実を図り、近隣地域の親子が心身ともに解放しながら楽しめるような企画をし、地域の子育て支援事業に貢献する。 親子でエコ活動に参加するこ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との交流はこの時代だからこそ大切にしたい事柄。核家族が増え、昔ながらの文化や風習が継承されにくい時代だが、幼稚園生活や行事を通して様々な日本風土における価値観や理念を伝えてほしい。 浜松ならではの特産物や園内で栽培 	B

	要に応じて利用する。		とで、小さな働きが社会や人々に役立っていることを知り、環境問題に関心を持ち生活のエコ化を意識する。	可能な食物等の収穫体験も取り入れると良い。	
B	研修への参加 <ul style="list-style-type: none"> 研修会では自己課題を明確にして積極的な参加をしている。 専門書や教育図書などを、積極的に購読し、向上する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育実践に結びつくような効果ある研修に参加する。 教育図書カードを活用し、全教員が互いに学び合ったことを伝える場にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な研修会への参加と報告および学び合いをする。 書籍を読むことで、思考の整理につなげたり保育におけるヒントを得たりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が多くの勉強を積む努力をしていることが分かる。今後より多くの教員が研修への積極的な参加ができるとう良い。 	A
A	外部アンケート <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園に行くことを楽しみにしている。 生活習慣を身につける。 子どもの気持ちに添った保育活動を行。 人とかかわる力が育ってきている。 園の教育環境が整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども1人ひとりと信頼関係を築き、子どもが安心して登園できる人的環境・物的環境を提供する。 人と関わる心地よさを体験させるために、教員自身が子どもを尊重しながら豊かな人間関係を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの生活や遊びを、子どもの発達や内面をおさえた視点で反省していく。 子どもの興味関心を引き出しより魅力的な活動の提供を行うためにも、教員自身の感性を磨くことを怠らない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは保護者一人ひとりの意見を全てとりあげ、それに対して丁寧な回答をしている点が良い。 保護者の信頼や期待が大きいことが分かる。今後も相互に良い関係性を維持してほしい。 	A